

# バリアドリード大学 交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部

国際言語文化学科 ヨーロッパコース 3年

2022年9月から2023年2月26日の半年間、バリャドリード大学セゴビアキャンパスに交換留学をした。セゴビアはカスティーリャ・イ・レオン州であり、マドリードから車で1時間弱、バスで2時間弱のところに位置している。都会に近いが静かで落ち着いた都市という印象である。バリャドリード大学はセゴビア以外にも同州にいくつかキャンパスがあるが、セゴビアキャンパスには4つの学部が存在しており、私は観光学部1年に所属していた。

観光学部1年は観光学の基礎を学ぶ授業に加えて、心理学や英語、マーケティングなど多岐にわたって学ぶことができる。私は、観光の歴史や観光地理学の2つの授業を履修していた。授業はディクテーションのような形式で、先生がパワーポイントを使用しながら重要なキーワードを黒板に書いていた。授業中、聞き取りが十分にできず自分のメモしたノートだけでは、情報不足であったりスペルミスも多かったりした。そのため、毎回授業終わりにクラスメイトのノートを写したり、先生に質問したりするなど誰かのサポートがない限り完全に授業を理解することはできなかった。しかし、時間の経過とともに聞き取れる単語の量や集中力がより向上し、素早くメモをとることができるようになった。またクラスメイトとの会話において、興味関心がある、または既知の話題であれば積極的に会話に参加することができるようになった。

なお私のスペイン語レベルは、留学以前はA2～B1の間であった。具体的には、静岡県立大学にて2年間でB1レベルの学習範囲を勉強した。しかし、実際の会話レベルはA2ほどであった。そこで、セゴビアに半年留学する前に1ヶ月ほどサラマンカという、セゴビアと同州にある都市でスペイン語を学んだ。

スペインでの生活は非常に充実していた。セゴビアにはカフェやバルが多く、天気の良い日はテラス席でおしゃべりを楽しむスペイン人たちの光景をよく見かけた。私自身も一人であるいは授業終わりに友人と立ち寄ったことも度々あった。また、日用品は基本的にセゴビアで揃えることができた。ただし、日本であればスーパーで簡単に手に入る商品でもマド

リードやネットで注文しないと購入できないものもあった。また、基本的にピソには掃除機がなく週に一度ほうきとモップで部屋を掃除した。セゴビアの冬は 0 度を下回ることも少なくないのだが、ストーブではなく壁に取り付けられたヒーターを使用する。私のピソの場合、オイルヒーターがすぐに温まらなかったり、ガス代の高騰によりなかなかつけることができなかったりした。日本での暮らしが便利さを追求した生活であったことを実感した。だからと言って、スペインでの暮らしに不便さを感じたのではなく、むしろ便利さを追求しすぎない暮らしが私は良いと思った。

留学期間中セゴビアだけではなく、スペイン国内外に何度か旅行に出かけた。私は西洋美術に興味があったため、美術館や教会を中心に訪れた。例えば、スペイン国内では旧都市であるトレドで教会巡りやエル・グレコの作品を見たり、マドリードのプラド美術館に訪れベラスケスやゴヤの作品を鑑賞したり友人たちと買い物に行ったりもした。一方、スペイン国外では、フランスのパリにてオルセー美術館やルーブル美術館など美術館巡りやヴェルサイユ宮殿に訪れた。また、ロンドンにも赴き世界各地から集められた美術作品を見たり、ロンドン塔にも訪れたりした。高校生の頃に教科書で見た世界が目の前に広がっており、鳥肌が止まらない、非常に貴重な経験でした。

さらに、クリスマスから年始までは友人の実家であるモントロという南スペインの地域に滞在した。モントロはフラメンコが有名な南スペインのアンダルシア地方の都市である。スペインでは年末年始は親戚一同が集まるのが基本で、そこではおしゃべりをしたりゲームをしたり歌ったり踊ったりとても楽しかった。食事は基本的にビュッフェ形式でアンダルシア地方と特有の食べ物を堪能した。生ハムやアロス・コン・レチェ、フラメンキートと呼ばれるメンチカツのような食べ物などスペインらしい、シンプルで美味しい食事ばかりであった。彼女の家族や親戚は私をととても温かく迎え入れてくれた。彼女の家族は、セビーリャやコルドバなど南スペインの主要な都市に連れて行ってくれた。コルドバのアルカサル・イルミネーションを訪れたり、メスキータを訪れたり直接フラメンコを見たりする

ことができた。また、モントロからセゴビアに戻る日にフラメンコの衣装を着せてくれて、何から何まで彼女とそのご家族には心から感謝している。

セゴビアでの生活を通して多くの貴重な経験をする事ができた。これらの経験ができたことに感謝し、今後の人生に役立てていきたいと考えている。

最後に、今回の留学を実現させることができたのは、バリアドリード大学や静岡県立大学の関係者の皆様、スパニッシュコミュニケーションズの皆様、JASSO 海外留学支援などさまざまな方々のサポートおかげであり、感謝の意を表したい。

